

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2018.3

vol. 143

就任のご挨拶



消化器内科：桜井 一宏

春陽の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、平成30年4月1日付で鹿児島通信病院肝臓内科、眼科が鹿児島医療センターへ機能移転いたします。

私はこれまで鹿児島大学消化器内科や鹿児島市立病院で肝臓内科医として研鑽を積み、平成23年より鹿児島通信病院肝臓内科にて慢性肝疾患、肝癌の治療に携わってまいりました。

近年、C型慢性肝炎の治療は飛躍的に進歩し、経口直接作用型抗ウイルス薬（DAA製剤）により、ほぼ100%の患者さんがほとんど副作用なく治癒するようになりました。

またB型慢性肝炎も核酸アナログ製剤により、長期の内服が必要ですが、完全にコントロール可能な疾患となっています。このようにかつて国民病とまで言われていたウイルス性肝疾患は減少傾向となっています。

それに対して、生活習慣の欧米化により、脂肪肝が増加し、国民の5人に1人は脂肪肝で、その中に炎症、線維化をとめない、肝硬変、肝癌に進行する可能性のある非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の患者さんが約400万人存在すると推定されています。

肝癌の主因としてはかつてはウイルス性肝疾患が大部分を占めていましたが、近年肝炎ウイルスに感染していない方からの肝癌が急増しており、NASH患者の増加が原因と考えられています。NASH由来肝癌の増加率は大腸癌、膵癌の増加率を上回っているとされ、ウイルス性肝疾患と異なり、囲い込み経過観察が行われていないため、早期発見が困難です。NASHは糖尿病、心疾患を合併していることが多く、当院に通院されている患者さんの中にも少なからずNASHの患者さんがいらっしゃると思われ、その掘り起しに努めていきたいと考えています。

また進行肝癌の治療法にも新たな潮流が認められ、従来の分子標的剤ソラフェニブに加え昨年レゴラフェニブが保険適応追加となり、今年更に一剤加わることから、進行肝癌の治療については肝動脈化学塞栓療法（TACE）中心であったものが、今後TACE不応性のもは分子標的剤へ切り替わっていくと考えられます。

微力ではありますが、当院消化器内科に鹿児島通信病院肝臓内科の機能が加わったことにより、更なる診療の充実を図るとともに地域医療への貢献に努力してまいりますので皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

定年退職のご挨拶

鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校
副学校長：有村 優子



お世話になりました。

私は昭和54年高度経済成長期の真只中、本校の前身である国立鹿児島病院附属看護学校を卒業し、39名の同級生と学び舎を後にしました。設置主体の違う幾つかの職場を経験した後帰鹿し、南九州中央病院に採用していただき今日に至っています。循環器病センターとして確固たる地位を築きあげた母校の病院での勤務はわずか2年程で、管内の看護学校への異動を命じられ長く基礎看護教育に従事、そして再び臨床に異動し病棟管理に従事した後、病院職員の教育・研修を専門に担当する役割を命じられました。(国立病院機構へと法人化され、新たな臨床研修医制度が施行された頃です。)

その頃臨床ではチーム医療の重要性が語られ始めており、それを担う職員つまり地域から期待されている医療や看護を提供する優秀な人材の確保と採用後の教育プランの検討、教育の実践に奔走したことが懐かしく思い出されます。臨床における職員の教育・研修は、幹部職員が描くところの病院理念を具現化でき得る人材の育成であり、同時に個人のキャリア開発であると理解し職員の成長を感じる日々を経験できたことは、その後の私の中で卒後教育、現任教育、人材育成への強い関心となっていきました。

幸いにも最後に母校で勤務する機会をいただき、教育主事として3年、副学校長として5年間勤務いたしました。職員の皆様方には看護師の育成、特に講義や臨床実習指導、病院のイベントへの学生の参加等と、お忙しい中で多大なご支援をいただきました。個々の学生を育てるには教育する側に時間と寛容な姿勢を求められる今日、学校の要望に常に前向きに取り組んでいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

基礎看護教育に24年、臨床看護に16年従事し、看護師人生に一区切りつける時がまいりました。多くの方々の支援により今の私自身があることを胸に刻みつつ、後に続く方々に若干の恩返しができますよう微力ながら努力してまいります。

ありがとうございました。皆様、お元気で。

職場紹介

【東4階病棟】

東4階病棟は、心臓血管外科・消化器外科を中心とし、平成28年12月より、HCU4床を有する48床の病棟となりました。

病棟スタッフの構成は心臓血管医師6名、消化器外科医師5名、看護師39名、看護業務技術員5名です。

患者さまは鹿児島全域に及び、地域病院との連携を持ちながら、手術・治療が必要な方の入院を受け入れています。主に心臓血管外科では、虚血性心疾患、弁膜症、胸腹部大動脈瘤、下肢静脈瘤などの手術を行い、消化器外科では膵臓・胆道・肝臓を中心とした鏡視下手術や大腸がん、ヘルニア等も鏡視下手術を行っています。平成28年度の心臓血管外科手術は462件、外科手術は328件の実績でした。

周手術期の看護において、安全で安心して治療が受けられるように、入院前から手術に対する思いや気がかりなことへの対応、入院までの自宅での過ごし方などの支援を行っています。また入院後はクリティカルパスを使い、PNS看護方式による安心できる看護を提供しています。手術後の生活について、薬剤師、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなどチーム医療を提供しています。特に心臓手術を受けられた方は、段階的で専門的な心臓リハビリテーションを実施し、快復支援を行っています。

患者さまの高齢化やリスクファクターにより、合併症を持つ方が多く、単疾患でスムーズに退院できる方が少なくなってきましたが、患者さまのゴールを入院から設定し、地域医療連携室と共に病病・病診連携を図り、患者さまの求める医療が提供できるように更に取り組んでいきたいと思ひます。尚 昨年12月から皮膚・排泄看護認定看護師研修を修了した看護師が誕生しました。認定看護師の人材を組織横断的に活用できるよう専門性を高め、看護の質を向上してまいりたいと思ひます。

(文責：看護師長 堂園 文子)



第8回 心臓・血管病市民公開講座

平成30年5月12日（土）、かごしま県民交流センターにおいて、第8回心臓・血管病市民公開講座を開催させていただきこととなりました。

本会は、一般の方々へ心臓や血管病の循環器疾患を広く知っていただき、日常に役立てていただくために年一回開催しております。

今回のテーマは『大切な人のために、知っておきたい心臓疾患～家族を心臓病から守ろう（突然の胸痛に、慌てないために）～』としました。

当院のスタッフが、各心疾患について講演します。

たくさんの方々に来ていただき、この会からの情報発信が、皆様に貢献できることを心より願っております。

（文責：第8回心臓・血管病市民公開講座担当 循環器内科部長 藺田 正浩）

国立病院機構 鹿児島医療センター
第8回心臓・血管病市民公開講座

～家族を心臓病から守ろう(大切な人が胸痛を訴えたら)～

大切な人のために、知っておきたい心臓疾患

～家族を心臓病から守ろう(突然の胸痛に慌てないために)～

申込不要 入場無料

日時 2018年5月12日(土)
13:30～16:30(13:00開場)

場所 鹿児島県民交流センター

開会あいさつ	13:30	院長 田中 康博
大切な人が胸痛を訴えたら		
講演①	13:40～14:20	不安定狭心症・心筋梗塞 救急科医長 田中 秀樹
講演②	14:20～14:50	急性大動脈解離 心臓血管外科部長 金城 玉洋
休憩	14:50～15:00	
講演③	15:00～15:30	急性肺塞栓症 循環器内科医長 片岡 哲郎
失神、突然の心肺停止		
講演④	15:30～16:00	危険な不整脈 循環器内科医長 塗木 徳人
パネルディスカッション、質疑応答	16:00～16:20	循環器内科部長 藺田 正浩 6階病棟部長 福元 京子
くじ引き大会	16:20～16:30	
閉会あいさつ		副院長 中島 均

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター**（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】藺田・谷口・田上・吉永・迫田・中田・吉留・菊永・櫻木・田辺・前田

【がん相談】松崎・森・水元・原田・上妻・久保・杉本

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

